

## 沖縄県津堅方言の報告 — 動詞形態論と言語資料としての翻訳テキスト —

又吉 里美

### 1 津堅島の概要

津堅島は、周囲約 8 km、面積約 1.8k m<sup>2</sup>の島で、北緯 26 度 15 分、東経 127 度 56 分にあり、沖縄本島中南部東海岸に面した与勝半島の南東約 5 kmに位置する。かつては、勝連町に属していたが、現在は平成 17 年 4 月 1 日に、具志川市、石川市、勝連町、与那城町の 2 市 2 町が合併してできた「うるま市」の行政区の一つである。

琉球方言を北琉球方言と南琉球方言とに大きく分けて考えると、北琉球方言には、奄美諸島および沖縄本島及びその周辺の島々の方言が含まれ、南琉球方言には、宮古諸島および八重山諸島の方言が含まれる。したがって、津堅方言は北琉球方言としてまず位置づけられる。さらに、北琉球方言は、奄美德之島諸方言、沖永良部与論沖繩北部諸方言、沖縄中南部諸方言に分けられる。沖縄本島に関して見てみると、太平洋側では金武町屋嘉、東シナ海側では恩納村恩納以北が沖永良部与論沖繩北部諸方言に区分され、それより南は沖縄中南部諸方言に区分される。地理的に見れば、先に述べたように、津堅島は太平洋側の勝連半島の南東に位置し、すなわち、金武町屋嘉以南に位置する。地理的位置から判断すれば、津堅方言は、沖縄中南部諸方言に属すると考えられる。しかし、これまでの諸研究により、p 音の残存状況、格助詞の方向格、与格の体系などから、津堅方言は沖永良部与論沖繩北部諸方言の特徴を有していることが明らかにされており、言語的な位置づけとしては沖永良部与論沖繩北部諸方言に属すると結論づけられている。動詞の形態においても、少なからず、沖縄本島北部方言の特徴を持っていることを指摘できる。たとえば、津堅方言において、条件形 *jumiba* (読めば)、継続形 *juruN* (読んでいる) という形態があり、今帰仁方言や、津堅方言と同じく沖縄本島中南部にありながら沖縄本島北部方言の特徴を持つ久高方言<sup>\*1</sup>に近い形態を持つ。しかし、今帰仁方言や久高方言に見られる終止形の形態、*mumiN* (飲む) *'jubiN* (呼ぶ) のような形態は確認できていない。終止形は首里方言と同じ *-uN* の形態をとり、*numuN* (飲む)、*jubuN* (呼ぶ) となる。すなわち、津堅方言の動詞活用においては、沖縄中南部方言の特徴と沖縄北部方言の特徴とを併せ持っていると考えられる。さて、本稿では、津堅方言の動詞について、動詞の形態について、活用のタイプ、直説法非過去形・過去形・意志・勧誘・命令、推量形、連体形、連用形、条件形に分けて整理して示す。また、言語資料として動詞活用の調査に使用した例文の翻訳および「おおきなかぶ」の翻訳テキストをグロス付きで提示する。

### 2 津堅方言の動詞の活用タイプ

活用のタイプは大きく規則変化と不規則変化に分けられ、さらに規則変化は強変化動詞と混合変化動詞に分けられる。強変化動詞は語幹末が子音終わりの動詞で、基本語幹、連

用語幹、音便語幹を持ち、連用語幹を含む動詞基本形は *-uN* である。音便語幹には促音便語幹はなく、脱落音便に統一される。強変化動詞はタイプ A と B に分けられる。タイプ A では、基本語幹と連用語幹は同形である。なお、語幹末の音韻が同じでも、音便語幹を含む形態には複数の形態が表れるが、規則性を持つものと例外的なものとの混じる。たとえば、語幹末に *m* 音を有するものとして、「飲む (*num-*)」「見る (*m-*)」が挙げられる。それぞれ、音便語幹を含む形態は *nu-ri*、*N-ci* である。このうち、*m* 音末尾は *-ri* 語尾になるのが規則的に見られる (*kam-u-N/ka-ri* 〈食べる／食べて〉、*jum-u-N/ju-ri* 〈読む／読んで〉など)。語幹末 *k* 音でも音便語幹のバリエーションが確認できる。強変化タイプ B は、基本語幹、連用語幹、音便語幹の3つにおいて異なる形態である。

一方、混合変化動詞は、基本語幹は強変化動詞と同じ子音終わりの語幹であるが(すべて *r* 語幹末である)、連用語幹は母音終わりの語幹である。音便語幹は脱落音便と音便なしのパターンがある。混合変化動詞は基本形の語構成で2形態に分類されよう。タイプ A は *-N* 語尾、タイプ B は *-i-N* 語尾である。

		基本語幹 (勧誘形)	連用語幹 (基本形)	音便語幹 (第2中止形)
規則変化動詞				
強変化動詞タイプ A	飛ぶ	tub-a	tub-u-N	tu-ri
	飲む	num-a	num-u-N	nu-ri
	食べる	kam-a	kam-u-N	ka-ri
	落とす	utuh-a	utuh-u-N	utu-ci
	見る	m-a	m-u-N	N-ci
	くびる	kuNk-a	kuNk-u-N	kuN-ci
	漕ぐ	kug-a	kug-u-N	ku-zi
	行く	ik-a	ik-u-N	N-zi <sup>*2</sup>
	書く	kak-a	kak-u-N	ka-si
強変化動詞タイプ B	かぶる	kaNr-a	kaNz-u-N	kaN-ti
	洗う	arah-a (ara-a)	ara-u-N	ara-ti
	持つ	mut-a	mus-u-N (muts-u-N)	mu-si (mu-ci)
混合変化動詞タイプ A	切る	kir-a	ki-N	ki-ti
	蹴る	kir-a	ki-N	ki-ti
	やる	kir-a	ki-N	ki-ti

	酔う	jir-a	ji-N	ji-ti
	起きる	ukir-a	uki-N	uki-ti
	落ちる	utir-a	uti-N	uti-ti
	降りる	urir-a	uri-N	uri-ti
	捨てる	sitir-a	siti-N	siti-ti
		(itir-a)	(iti-N)	(iti-ti)
	閉める	simir-a	simi-N	simi-ti
混合変化動詞タイプB	買う	koor-a	koo-i-N	koo-ti
	掘る	pur-a	pu-i-N	pu-ti
	売る	ur-a	u-i-N	u-ti
不規則変化	来る	kuu	suN	kisi
	する	haa	huN	hii

### 3 動詞の形態

#### 3.1 文末終止形－直説法非過去形・過去形・意志・勧誘・命令－

直説法非過去形にはいわゆる終止形の形態と、*ru* 結びによる連体形 (ADN) の形態とが見いだされる。ただし、*ru* 結びによる連体形は必須ではなく、*ru* が文中にあっても、連体形にはならないこともある。

過去形には第一過去と第二過去とが見いだされる。第二過去がいわゆるウチナーヤマトグチの「～しよった」に対応して、直接に体験・知覚したことや目撃性の意味を付加させるのに対して、第一過去は過去一般に対して用いられ、目撃性は中立的である。第一過去形の語構成、第二過去形の語構成は以下のとおりである。すなわち、第一過去形は過去接辞-*ta* で構成され (強変化動詞では基本語幹の末尾音によって子音-*t* 部分が変化する)、第二過去形は強変化動詞で-*uta*、混合変化動詞で-*ita* の接続によって構成される。

第一過去形	強変化動詞	: 音便語幹- <i>Xa-N</i> (音便語幹-PST1-IND)
		(Xは基本語幹の末尾音によって異なる)
	混合変化動詞	: 音便語幹- <i>ta-N</i> (音便語幹-PST1-IND)
第二過去形	強変化動詞	: 基本語幹- <i>uta-N</i> (基本語幹-PST2-IND)
	混合変化動詞	: 基本語幹- <i>ita-N</i> (基本語幹-PST2-IND)

さらに、意志・勧誘の形態は、「基本語幹-*a*」で構成され、命令形は「基本語幹-*i*」で構成される。命令形では=*be* をつけた形もよく使用され、=*be* が付属しない形よりはやや柔らかい感じをもたらす。以下、表1～表4において、具体的にその形態を示す。また、それぞれの形態について、例文とともに示す。

表1 強変化動詞「*tubuN*（飛ぶ）」の文末終止形

	非過去	第1過去	第2過去
断定	<i>tub-u-N</i> 飛ぶ-NPST-IND	<i>tu-ra-N</i> 飛ぶ-PST1-IND	<i>tub-uta-N</i> 飛ぶ-PST2-IND
否定	<i>tub-aN</i> 飛ぶ-NEG	<i>tub-aN-ta-N</i> 飛ぶ-NEG-PST1-IND	
意志・勧誘	<i>tub-a</i> 飛ぶ-INT		
命令	<i>tub-i</i> 飛ぶ-IMP		

表2 混合変化動詞「*ukiN*（起きる）」の文末終止形

	非過去	第1過去	第2過去
断定	<i>uki-N</i> 起きる-IND	<i>uki-ta-N</i> 起きる-PST1-IND	<i>uki-ita-N</i> 起きる-PST2-IND
否定	<i>ukir-aN</i> 起きる-NEG	<i>ukir-aN-ta-N</i> 起きる-NEG-PST1-IND	
意志・勧誘	<i>ukir-a</i> 起きる-INT		
命令	<i>ukir-i</i> 起きる-IMP		

表3 不規則変化動詞「*suN*（来る）」の文末終止形

	非過去	第1過去	第2過去
断定	<i>su-N</i> 来る.NPST-IND	<i>ki-sa-N</i> 来る-PST1-IND	<i>kis-uta-N</i> 来る-PST2-IND
否定	<i>kuN</i> 来る.NEG	<i>kuN-ta-N</i> 来る.NEG-PST1-IND	
意志・勧誘	<i>kuu</i> 来る.INT		
命令	<i>kuu</i> 来る.IMP		

表4 不規則変化動詞「*huN*（する）」の文末終止形

	非過去	第1過去	第2過去
断定	<i>hu-N</i> する-IND	<i>sa-N</i> する.PST1-IND	<i>s-uta-N</i> する-PST2-IND
否定	<i>h-aN</i> する-NEG	<i>haN-ta-N</i> する.-PST1-IND	
意志・勧誘	<i>haa</i> する.INT		
命令	<i>hii</i> する.IMP		

非過去形

- (1) *wattaa=φ niinii-taa=ga=ru kam-u-N.*  
 私たち=GEN 兄さん-PL=NOM=FOC 食べる-NPST-IND  
 私たちの兄さんたち（自分の息子を指す）が食べる。
- (2) *sima=nu kutu ari=ga=ru buru waka-i-ru.*  
 島=GEN こと あれ=NOM=FOC 全部 分かる-NPST-ADN  
 島のこと、あれ {note:自分の親を指す} が全部分かる。

第一過去形

- (3) *waN=ja kinuu uma=kara tu-ra-N.*  
 私=TOP 昨日 ここ=ABL 飛ぶ-PST1-IND  
 私は昨日、ここから飛んだ。

第二過去形

- (4) *kinuu tui-gwaa=ga tub-uta-N.*  
 昨日 小鳥-DIM=NOM 飛ぶ-PST2-IND  
 昨日、小鳥が飛びよった。
- (5) *kkee jagati iibi=φ ki-ita-N.*  
 DSC やがて 指=ACC 切る-PST2-IND  
 あら、やがて指を切りよった（=指を切るところだった）。

意志・勧誘

- (6) *maNna ik-a=ja.*  
 一緒に 行く-INT=SFP  
 一緒に行こう。

命令形

- (7) *miici=Nka wakir-i.*  
 みっつ=DAT 分ける-IMP  
 三つに分ける。
- (8) *miici=Nka wakir-i=be.*  
 みっつ=DAT 分ける-IMP=SFP  
 三つに分けるよ。

3.2 推量形

推量形は-N (IND) を *-ru=hazi* (-ADN=INFR) または *-ra=hazi* (-ADN=INFR) に変えることによって作られる。*-ru=hazi*、*-ra=hazi* の形態のいずれを使用するかは地域によって異なる傾向があるように思われる。

- (北) 伊江島方言 : *jupurup'azi* 「読むと思う」〈蓋然性の強い推量〉  
 (p'は喉頭化無気音)
- (中南) 首里方言 : *kanuru hazi* 「食べるだろう」
- (北) 今帰仁方言 : *numira-p'azi* 「飲むだろう」  
 (p'は非喉頭化破裂音。p' 喉頭化破裂音との対立あり)
- (中南) 奥武方言 : *saʃura hadʒi* 「咲くだろう」

沖縄本島北部、中南部のいずれでも *-ru=hazi*、*-ra=hazi* は使用されるようである。*-ru=hazi*、*-ra=hazi* の両形がかつては意味の違いがあるものとして使い分けられていたのか、地域差による違いなのかについては諸方言の実態とあわせて検討する必要があるかもしれない。

さて、津堅方言では、*-ru=hazi*、*-ra=hazi* のいずれも使用され、形態の違いが文の意味に影響するということはないように見える。実際に、「切るだろう」が、*kiiruhazi*、*kiirahazi* のように両形態で提示されることも少なくない。

表5 強変化動詞「*jumuN*（読む）」の文末終止形－断定・推量－

	非過去	第1過去	第2過去
断定	<i>jum-u-N</i> 読む-NPST-IND	<i>ju-ra-N</i> 読む-PST1-IND	<i>jum-uta-N</i> 読む-PST2-IND
断定否定	<i>jum-aN</i> 読む-NEG	<i>jum-aN-ta-N</i> 読む-NEG-PST1-IND	
推量	<i>jum-u-ru=hazi</i> 読む-NPST-ADN=INFR ( <i>jum-u-rahazi</i> )	<i>ju-ra-ru=hazi</i> 読む-PST-ADN=INFR ( <i>ju-ra-rahazi</i> )	<i>jum-uta-ru=hazi</i> 読む-PST2-ADN=INFR ( <i>jum-uta-rahazi</i> )
推量否定	<i>jum-aN=hazi</i> 読む-NEG=INFR	<i>jum-aN-ta-ru=hazi</i> 読む-NEG-PST1-ADN=INFR ( <i>jum-aN-ta-ra=hazi</i> )	

(9) *deNki=ja kee-tu-ru=hazi=ro.*  
電気=TOP 消える-PROG-ADN=INFR=SFP  
電気は消えているだろうよ。

(10) *ami=ϕ pu-ta-ru=hazi.*  
窓=NOM 降る-PST1-ADN=INFR  
雨が降っただろう。

(11) *miimaN-tu-ra=hazi=ro.*  
見守る-PROG-ADN=INFR=SFP  
見守っているだろうよ。

### 3. 3 連体形

強変化動詞の連体形は語尾の *-N* (IND) を *-ru* (ADN) に変化させることでその形を作る。*tub-u-N* (飛ぶ-NPST-IND) は、*tub-u-ru* (飛ぶ-NPST-ADN) となる。混合変化動詞 *ki-N* (切る-IND) は、*[ki:ru]* と長音化したものとなる\*<sup>3</sup>。また、否定形については、直説法の否定形と同形のものがそのまま体言へつながっていく。

表6 強変化動詞「*tubuN*（飛ぶ）」の連体形

	非過去	第1過去	第2過去
断定	<i>tub-u-ru</i> 飛ぶ-NPST-ADN	<i>tu-ra-ru</i> 飛ぶ-PST1-ADN	<i>tub-uta-ru</i> 飛ぶ-PST2-ADN
否定	<i>tub-aN</i> 飛ぶ-NEG	<i>tub-aN-ta-ru</i> 飛ぶ-NEG-PST1-ADN	

表7 混合変化動詞「*kiN*（切る）」の連体形

	非過去	第1過去	第2過去
断定	<i>ki-i-ru</i> 切る-NPST-ADN	<i>ki-ta-ru</i> 切る-PST-ADN	<i>ki-ita-ru</i> 切る-PST2-ADN
否定	<i>kir-aN</i> 切る-NEG	<i>kir-aN-ta-ru</i> 切る-NEG-PST1-ADN	

(12) *zippuN=gurai ziteNsja=kara ik-u-ru uma=Nka*  
 10分=くらい 自転車=ABL 行く-NPST-ADN ここ=LOC

*pama=nu aN=cui=gate.*  
 浜=NOM ある=QUOT=SFP

10分くらい自転車で行くそこに浜があるというがね。

(13) *uree seekjoo=kara koo-ta-ru muN=ro.*  
 これ.TOP 生協=ABL 買う-PST1-ADN もの=SFP

これは、生協から買った物よ。

(14) *ari=ga sir-aN cuu=ce ur-aN.*  
 彼女=NOM 知る-NEG.ADN 人=QUOT.TOP いる-NEG

彼女が知らない人というのはいない。

### 3. 4 連用形

連用形には以下の5つの形態があるが、第2中止形は継起や列挙などの複数の用法をもち、先行形、同時形、並列形は特定の用法に特化している。第1中止形は単独で用いられることはあまり見られず、多くは *jumipazimiN*（読み始める）、*juminoohuN*（読み直す）などの複合語の要素や *jumijumihuN*（読みに読む、読み合う）のように動作の反復を表す表現で表れる。第2中止形はいわゆるテ形に相当するもので、並列や継起の用法として用いられる。また、ある行為をそそのかすときの *judiNree*「読んでみる」などの構成要素として用いられる。先行形は、第2中止形に *-kara* を接続させた形で、継起用法に特化している。同時形は第1中止形に *-igisana* を接続させた形で、付帯状況を表す。

表8 強変化動詞「*jumuN*（読む）」の連用形

第1中止形	<i>(jumi)</i>
第2中止形	<i>ju-ri</i>
先行形	<i>ju-rikara</i>
同時形	<i>jum-igisana</i>
並列形	<i>jum-ui</i>

### 第1中止形

- (15) *nama hoN=φ jumipazimi-tu-ta-N.*  
 今 本=ACC 読み始める-PROG-PST1-IND  
 今、本を読み始めていた。

### 第2中止形

- (16) *sima=uti umari-ti sima=Nka=ru u-N=ro.*  
 島=LOC3 生まれる-SEQ2 島=LOC1=FOC いる-IND=SFP  
 島で生まれて、島に居るよ。（継起用法）
- (17) *ik-ini=jo suku-ti reetoo-si mu-si ik-u-N=cuN.*  
 行く-GER=SFP 作る-SEQ2 冷凍-する.SEQ2 持つ-SEQ2 行く-NPST-IND=QUOT  
 行くときに作って、冷凍して、持っていくって。（継起用法）
- (18) *waN=ja ?juu=φ koo-ti rusi=ja sisi=φ koo-ta-N.*  
 私=TOP 魚=ACC 買う-SEQ2 友達=TOP 肉=ACC 買う-PST1-IND  
 私は魚を買って、友達は肉を買った。（列挙用法）

### 先行形

- (19) *saa=φ nu-rikara=ru sigutu=φ pazimi-ru.*  
 お茶=ACC 飲む-SEQ3=FOC 仕事=ACC 始める-ADN  
 お茶を飲んでから仕事を始める。
- (20) *uri juu=φ na-tikara=ru Xsjee sikeehat-tu-N=ro.*  
 この 世=DAT なる-SEQ3=FOC X姓.TOP つけられる-PROG-IND=SFP  
 戦後なってからX姓はつけられているよ。

### 同時形

- (21) *wanuN kam-igisana uma=Nzi nihjakueN=si*  
 私.ADD 食べる-SIM ここ=LOC2 二百円=INST  
*mata uiruruNka i-NzjaN=ro.*  
 また（分析保留）言う-PROG2=SFP  
 私もまた（自分でも米を）食べながら、ここで二百円でまた売っているなど言っているよ。



(22) *hoN=φ jum-igisana terebi=ja mu-una.*  
 本=ACC 読む-SIM テレビ=TOP 見る-PROH  
 本を読みながらテレビは見るな。

並列形

(23) *aree honuN jum-ui maNga=N jum-u-N* .  
 彼.TOP 本.ADD 読む-REC 漫画=ADD 読む-NPST-IND  
 彼は本も読むし漫画も読む。

3. 5 条件形・譲歩形・目的形

津堅方言では条件形1と条件形2<sup>\*4</sup>の2つ形態がある。条件形1は、当該形態を含む従属節において、現実には存在していない事態、いわゆる仮定的条件が示されるが、主節における事態は未実現であったり（仮説条件文）、実現していたりする（疑似条件文）。そのほか、従属節の仮定条件に対して、主節で評価的態度を表すこともある。条件形2は、因果関係にもとづく関係性を表現する。ただし、因果関係か仮定的条件かが曖昧な場合、条件形1でも条件形2でも表現しうる。たとえば、「薬を飲めば（飲んだら）治るよ」は因果関係とも仮定的条件ともとれる。その場合、*kusui numine*(条件2)/*numiba*(条件1) *nooiNro*、の両形態がとれる<sup>\*5</sup>。

譲歩形は、従属節における譲歩形で表された行為や事態に対して、主節では期待される結果とならないことが表される。

目的形は-*ga* を接続させた形で、移動の目的を表す。「移動」の目的なので、後に続く動詞としては、*ikuN*（行く）、*suN*（来る）、*ukuiN*（送る）などの移動動詞が接続する。

表9 強変化動詞「*jumuN*（読む）」の条件形・譲歩形・目的形

条件形1	<i>jum-iba</i>
条件形2	<i>jum-ine</i>
譲歩形	<i>ju-riN</i>
目的形	<i>jum-iga</i>

条件1（*jum-iba*形）

(24) *?jaa=ga jaa=Nka uur-iba wanu suu-wa=ja.*  
 あなた=NOM 家=DAT いる-COND1 私.TOP 来る-SFP=SFP  
 あなたが家にいるなら、私は来るよ。（仮説条件文）

(25) *asa ku-uba niNziN=nu a-N=tee=ci*  
 明日 来る-COND1 ニンジン=NOM ある-IND=SFP=QUOT

*i-i=ja huu-ta-N=ro.*  
 言う-NPST=TOP する-PST1-IND=SFP

明日来たら、ニンジンがあるよと言いつたよ。（疑似条件文）

- (26) *koohii mucu ku-uba simutamuja aNca.*  
*koohii=φ mu-ci ku-uba simu-ta-munu=ja aNca.*  
 コーヒー=ACC 持つ-SEQ2 来る-COND1 すむ-PST1-SFP=SFP それなら  
 コーヒーを持ってきたらよかったのにね、それなら。(評価的態度)

条件2 ( *jum-ine* 形 )

- (27) *iN uri=ru jam-ine mata pisa=Nka nas-i=muN=cu.*  
 うん これ=FOC 痛む-COND2 また 膝=LOC1 なする-NPST=SFP=QUOT  
 うん、これ(薬を)、痛んだら、膝になすりつける(塗る)って。

- (28) *kusui=φ num-ine noo-i=ja.*  
 薬=ACC 飲む-COND2 治る-NPST=SFP  
 薬を飲めば治るよ。

譲歩形 ( *ju-riN* 形 )

- (29) *tumee-tiN tumer-ar-aN.*  
 探す-CONC 探す-PASS-NEG  
 探しても探せない。

目的形

- (31) *?akkenaa mikeejukee na uma=φ paka-iga su-i=ja.*  
 DSC 三回四回 DSC ここ=ALL はかる-PURP 来る-NPST=SFP  
 あら、三回四回もここ計りに来るよ。

4 言語資料—翻訳テキスト—

4.1 動詞調査票より

- (1) 規則変化動詞 強変化動詞タイプA—飛ぶ・飲む・落とす・くびる・漕ぐ—

1. *hootu=N taka=N tub-u-N* .  
 鳩=ADD 鷹=ADD 飛ぶ-NPST-IND  
 鳩も鷹も飛ぶ。
2. *suu=ja waasiki=φ wassa-nu hikookee tub-aN*  
 今日=TOP 天気=NOM 悪い-CSL 飛行機.TOP 飛ぶ-NEG  
 今日(今日は)は天気が悪いから飛行機は飛ばない。

3. *kkwadui=ga tu-ra-N*  
 小鳥=NOM 飛ぶ-PST1-IND  
 小鳥が飛んだ。
4. *ujadui=ga tu-ri kkwadui=N tu-ra-N*  
 親鳥=NOM 飛ぶ-SEQ2 小鳥=ADD 飛ぶ-PST1-IND  
 親鳥が飛んで、小鳥が飛んだ。
5. *nuru=ϕ kaak-ine mizi=ϕ num-u-N*  
 のど=NOM 乾く-COND2 水=ACC 飲む-NPST-IND  
 喉が乾いたら水を飲む。
6. *waa=ga utu=ja sakee num-aN*  
 私=NOM 夫=TOP 酒.TOP 飲む-NEG  
 私の夫は酒を飲まない。
7. *saa=ja namasaki nu-ra-N*  
 お茶=TOP さっき 飲む-PST1-IND  
 お茶はさっき飲んだ。
8. *kusui=ϕ nu-ri heeku niN-zi*  
 薬=ACC 飲む-SEQ2 早く 眠る-IMP  
 薬を飲んで、早く寝ろ。
9. *saaru=ga kii=nu mi=ϕ utuh-u-N*  
 猿=NOM 木=GEN 実=ACC 落とす-NPST-IND  
 猿が木の実を落とす。
10. *kunu saaruu=ja kii=nu mi=ja utuh-aN*  
 この 猿=TOP 木=GEN 実=TOP 落とす-NEG  
 この猿は木の実を落とさない。
11. *kinuu kaa=Nka isi=ϕ utu-tsa-N ( utu-ca-N)*  
 昨日 井戸=LOC1 石=ACC 落とす-PST1-IND (落とす-PST1-IND)  
 昨日井戸に石を落とした。
12. *boosi=ϕ utu-ci tui-ga Nza-N*  
 帽子=ACC 落とす-SEQ2 取る-PURP 行く.PST1-IND  
 帽子を落として、取りに行った。

13. *ki=Nka      nubu-ti      nai-gwaa      utu-ci      ki-ri*  
 木=LOC1      登る-SEQ2      木の実-DIM      落とす-SEQ2      くれる-IMP  
 木に登って実を落としてくれ。
14. *tui=ga      piNgir-aN=gutu=ni      pisa=φ      kuNk-u-N*  
 鶏=NOM      逃げる-NEG=よう=DAT      足=ACC      くびる-SFP-IND  
 鶏が逃げないように（両）足をくびる。
15. *pisa=N      pani=N      kuNk-aN*  
 足=ADD      羽=ADD      くびる-NEG  
 足も羽もくびらない。
16. *suutaa=ga      tui=φ      kuN-ca-N*  
 お父さん=NOM      鶏=ACC      くびる-PST1-IND  
 父が鶏をくびった。
17. *tui=φ      kuN-ci      kagu=Nka      iri-ri*  
 鳥=ACC      くびる=SEQ2      籠=LOC1      入れる-IMP  
 鶏をくびって、籠に入れてね。
18. *?jaa=ga      tui=φ      kuN-ci      ki-ri*  
 お前=NOM      鶏=ACC      くびる-SEQ2      くれる-IMP  
 おまえが鶏をくびってくれ。
19. *Nna=si      puni=φ      kug-u-N*  
 みんな=INST      船=ACC      漕ぐ-NPST-IND  
 みんなで舟を漕ぐ。
20. *taa=N      puni=φ      kug-aN*  
 誰=ADD      船=ACC      漕ぐ-NEG  
 誰も舟を漕がない。
21. *Nkasjee      juu      puni=φ      ku-za-N*  
 昔.TOP      よく      船=ACC      漕ぐ-PST1-IND  
 昔はよく舟を漕いだ。
22. *puni=φ      kuz-i      urikara      juku-ri=be*  
 船=ACC      漕ぐ-SEQ2      それから      休む-IMP=SFP  
 舟を漕いで、そのあと休め。

(2) 規則変化動詞 強変化動詞タイプB –持つ・洗う–

23. *uttu=ja tuuci nii=ja ruucui=si=ru mus-u-N*  
 弟=TOP いつも 荷物=TOP 自分一人=INST=FOC 持つ-NPST-IND  
 弟はいつも荷物を一人で持つ。
24. *paapaa=ja nii=ja mut-aN*  
 おばあさん=TOP 荷物=TOP 持つ-NEG  
 祖母は荷物を持たない。
25. *mme=ga musuru=ϕ mut-tsa-N*  
 おじいさん=NOM むしろ=ACC 持つ-PST1-IND  
 祖父がむしろを持った。
26. *suutaa=ga saki=ϕ mu-cci aNmaa=ja*  
 お父さん=NOM 酒=ACC 持つ-SEQ2 お母さん=TOP  
 . *kamimuN=ϕ mu-ccaN*  
 食べ物=ACC 持つ-PST1-IND  
 父が酒持って、母が食べ物を持つ。
27. *meenasi karazi=ϕ ara-u-N*  
 毎日 髪=ACC 洗う-NPST-IND  
 毎日髪を洗う。
28. *mmee=ja meenasje karazi=ϕ ara-aN*  
 おじさん=TOP 毎日.TOP 髪=ACC 洗う-NEG  
 祖父は毎日は髪を洗わない。
29. *kinuu karazi=ϕ ara-ta-N*  
 昨日 髪=ACC 洗う-PST1-IND  
 昨日、髪を洗った。
30. *tii=ϕ ara-ti muN=ϕ kam-i*  
 手=ACC 洗う-SEQ2 物=ACC 食べる-IMP  
 手を洗って、ご飯を食べろ。
31. *sira=N ara-ti kuu*  
 顔=ADD 洗う-SEQ2 来る-IMP  
 顔も洗ってこい。

32. *heeku saki=φ mu-ci kuu*  
 早く 酒=ACC 持つ-SEQ2 来る.IMP  
 早く酒を持ってこい。

(3) 規則変化動詞 混合変化動詞タイプAー切る・降りる・捨てるー

33. *nagaa-nu kii=nu juda=φ ki-N*  
 長い-ADN 木=GEN 枝=ACC 切る-IND  
 長い木の枝を切る。

34. *juru=ja simee kir-aN*  
 夜=TOP 爪.TOP 切る-NEG  
 夜には爪を切らない。

35. *waa=ga gazimaru=φ ki-ta-N*  
 私=NOM ガジマル=ACC 切る-PST1-IND  
 私がガジマルは切った。

36. *unu nagaa-nu karazi=ja ki-ti suugi=si ik-i=jo*  
 その 長い-ADN 髪=TOP 切る-SEQ2 お祝い=ALL 行く-IMP  
 その長い髪は切って、お祝いに行けよ。

37. *unu himu=φ miici=si ki-ti ki-ri*  
 その 紐=ACC 道=ALL 切る-SEQ2 くれる-IMP  
 この紐を三つに切ってくれないか。

38. *Nna uma=Nzi uri-N*  
 みんな ここ=LOC2 降りる-IND  
 みんなここで降りる。

39. *waN=ja uma=Nzje: urir-aN*  
 私=TOP ここ=LOC2.TOP 降りる-NEG  
 私はここでは降りない。

40. *uma=Nzi basu=φ uri-ta-N*  
 ここ=LOC2 バス=ACC 降りる-PST1-IND  
 ここでバスを降りた。

41. *basu=ϕ uri-ti deNwa=ϕ kaki-ri*  
 バス=ACC 降りる-SEQ2 電話=ACC かける-IMP  
 バスを降りて、電話かけろ。
42. *uttu=ga basu=kara uri-ti kisa-N*  
 妹=NOM バス=ABL 降りる-SEQ2 来る.PST1-IND  
 妹がバスから降りてきた。
43. *suutaa =ga meenasi gumi=ϕ siti-i-N (iti-i-N)*  
 お父さん=NOM 毎日 ゴミ=ACC 捨てる-NPST-IND (捨てる-NPST-IND)  
 父が毎日ゴミを捨てる。
44. *paapaa=ja puru-ginu=N sitir-aN (itir-aN)*  
 おばあさん=TOP 古い-着物=ADD 捨てる-NEG (捨てる-NEG)  
 祖母は古い着物も捨てない。
45. *puru-duugu=ja uttii siti-ta-N (iti-ta-N)*  
 古い-道具=TOP おととい 捨てる-PST1-IND (捨てる-PST1-IND)  
 古い道具はおととい捨てた。
46. *puru-muN=ja siti-ti (iti-ti) mii-muN koo-ri*  
 古い-物=TOP 捨てる=SEQ2 (捨てる-SEQ2) 新しい-物 買う-IMP  
 古いものは捨てて、新しいものを買え。
47. *gumi=ϕ uma=Nka siti-ti (iti-ti) ki-ri*  
 ゴミ=ACC ここ=LOC1 捨てる-SEQ2 (捨てる-SEQ2) くれる-IMP  
 ゴミをそこに捨ててくれ。

(4) 規則変化動詞 混合変化動詞タイプB－掘る・売る－

48. *meenasi mmu=ϕ pu-i-N*  
 毎日 芋=ACC 掘る-PST-IND  
 毎日芋を掘る。
49. *aNmaa =ja suu=ja mmu=ϕ pur-aN*  
 お母さん=TOP 今日=TOP 芋=ACC 掘る-NEG  
 母親は今日は芋を掘らない。

50. *Nkasi kaa=ϕ pu-ta-N*  
昔 井戸=ACC 掘る-PST1-IND  
昔井戸を掘った。
51. *ana=ϕ pu-ti juku-ri*  
穴=ACC 掘る-SEQ2 休む-IMP  
穴を掘って、休め。
52. *ama=nu zii=ϕ pu-ti kuu*  
あそこ=NOM 地面=ACC 掘る-SEQ2 来る-IMP  
あそこの地面を掘ってこい。
53. *meenasi jasai=ϕ u-i-N*  
毎日 野菜=ACC 売る-NPST-IND  
毎日野菜を売る。
54. *are=ja ruu=nu ?waa=ja ur-aN*  
彼=TOP 自分=NOM 豚=TOP 売る-NEG  
彼は自分の豚を売らない。
55. *kuzu piizaa=ϕ u-ta-N*  
去年 山羊=TOP 売る-PST1-IND  
去年山羊を売った。
56. *piizaa=ϕ u-ti ?waa=ϕ koo-ta-N*  
山羊=ACC 売る-SEQ2 豚=ACC 買う-PST1-IND  
山羊を売って、豚を買った。
57. *unu ?waa=ϕ u-ti tura-i*  
その 豚=ACC 売る-SEQ2 取らせる-IMP  
その豚を売ってください。

(5) 不規則変化動詞－来る－

58. *suu=ja suutaa =ga jaa=si suN*  
今日=TOP お父さん=NOM 家=ALL 来る-IND  
今日は父が家に来る。



59. *aNmaa=ja kuN*  
 お母さん=TOP 来る.NEG  
 今日は母は来ない。
60. *kinuu suutaa =ga jaa=si kisa-N*  
 昨日 お父さん=NOM 家=ALL 来る.PST1-IND  
 昨日父が家に来た。
61. *uma=si kisi jaa=si muru-ta-N*  
 ここ=ALL 来る.SEQ2 家=ALL 戻る-PST1-IND  
 こっちへ来て、家に戻った。
62. *uma=si heeku kuu*  
 ここ=ALL 早く 来る.IMP  
 こっちへ早く来い。
63. *uma=si kisi mi-i*  
 ここ=ALL 来る.SEQ2 みる-IMP  
 こっちへ来てみろ。

4. 2 「おおきなかぶ」の翻訳テキスト

*mmee=ga kabu=nu sani=φ ma-sa-N.*  
 おじいさん=NOM かぶ=GEN 種=ACC まく-PST1-IND  
 おじいさんがかぶの種をまいた

*ama-a-ru kabu=ni nar-i*  
 甘い-ADJ-ADN かぶ=DAT なる-IMP  
 あまいかぶになれ。

*magii kabu=ni nar-i*  
 大きい かぶ=DAT なる-IMP  
 大きなかぶになれ。

*ama-a-nu maaha=nu jii kabu ja-ru*  
 甘い-ADJ-ADN おいしい-ADN よい かぶ COP-ADN  
 あまい、おいしい、よいかぶだ。

*zikoo magii kabu=ga diki-ta-N*  
 ととも 大きい かぶ=NOM できる-PST1-IND  
 とともおおきいかぶができた。

*mmee=ja kabu=ϕ nuk-a=Nci hu-uta-N*  
 おじいさん=TOP かぶ=ACC 抜く-INT=QUOT する-PST2-IND  
 おじいさんははかぶをぬこうとした。

“*haijaagwa haijaagwa*”  
 DSC DSC  
 「うんとこしょ、どっこいしょ。」

*jaiga kabu=ja nu-ki-hij-aN*  
 しかし かぶ=TOP 抜く-SEQ1-POT-NEG  
 しかし、かぶは抜けない。

*mmee=ja paapaa=ϕ ju-ri kisa-N*  
 おじいさん=TOP おばあさん=ACC 呼ぶ-SEQ2 来る.PST-IND  
 おじいさんはおばあさんと呼んできた。

*paapaa=ga mmee=ϕ kasimi-ti mata*  
 おばあさん=NOM おじいさん=ACC つかむ-SEQ2 また  
*mmee=ga kabu=ϕ kasimi-ti “haijaagwa haijaagwa”*  
 おじいさん=NOM かぶ=ACC つかむ-SEQ2 DSC DSC  
*jaiga kabu=ja nu-ki-hij-aN*  
 しかし かぶ=TOP 抜く-SEQ1-POT-NEG  
 おばあさんがおじいさんをひっぱって、また、おじいさんがかぶをひっぱって「うんとこしょ、どっこいしょ。」しかし、かぶは抜けない。

*paapaa=ja mmaga=ϕ ju-ri kisa-N*  
 おばあさん=TOP 孫=ACC 呼ぶ-SEQ2 来る.PST-IND  
 おばあさんは孫と呼んできた。

*mmaga=ga paapaa=ϕ kasimi-ti mata*  
 孫=NOM おばあさん=ACC つかむ-SEQ2 また  
*paapaa=ga mmee=ϕ kasimi-ti mata*  
 おばあさん=NOM おじいさん=ACC つかむ-SEQ2 また  
*mmee=ga kabu=ϕ kasimi-ti “haijaagwa haijaagwa”*  
 おじいさん=NOM かぶ=ACC つかむ-SEQ2 DSC DSC

<i>namaN</i>	<i>kabu=ja</i>	<i>nu-ki-hiij-aN</i>
まだ	かぶ=TOP	抜く-SEQ1-POT-NEG

孫がおばあさんを引っぱって、おばあさんがおじいさんを引っぱって、おじいさんがかぶを引っぱって、「うんとこしょ、どっこいしょ。」まだかぶは抜けない。

<i>mmaga=ja</i>	<i>iN=φ</i>	<i>ju-ri</i>	<i>kisa-N</i>
孫=TOP	犬=ACC	呼ぶ-SEQ2	来る.PST-IND

孫は犬を呼んできた。

<i>iN=ga</i>	<i>mmaga=φ</i>	<i>kasimi-ti</i>	<i>mata</i>
犬=NOM	孫=ACC	つかむ-SEQ2	また
<i>mmaga=ga</i>	<i>paapaa=φ</i>	<i>kasimi-ti</i>	<i>mata</i>
孫=NOM	おばあさん=ACC	つかむ-SEQ2	また
<i>paapaa=ga</i>	<i>mmee=φ</i>	<i>kasimi-ti</i>	<i>mata</i>
おばあさん=NOM	おじいさん=ACC	つかむ-SEQ2	また
<i>mmee=ga</i>	<i>kabu=φ</i>	<i>kasimi-ti</i>	“ <i>haijaagwa haijaagwa</i> ”
おじいさん=NOM	かぶ=ACC	つかむ-SEQ2	DSC DSC
<i>namanama</i>	<i>kabu=ja</i>	<i>nu-ki-hiij-aN</i>	
まだまだ	かぶ=TOP	抜く-SEQ1-POT-NEG	

犬が孫を引っぱって、孫がおばあさんを引っぱって、おばあさんがおじいさんを引っぱって、おじいさんがかぶを引っぱって、「うんとこしょ、どっこいしょ。」まだまだかぶは抜けない。

<i>iN=ja</i>	<i>majaa=φ</i>	<i>ju-ri</i>	<i>kisa-N</i>
犬=TOP	猫=ACC	呼ぶ-SEQ2	来る.PST-IND

犬は猫を呼んできた。

<i>majaa=ga</i>	<i>iN=φ</i>	<i>kasimi-ti</i>	<i>mata</i>
猫=NOM	犬=ACC	つかむ-SEQ2	また
<i>iN=ga</i>	<i>mmaga=φ</i>	<i>kasimi-ti</i>	<i>mata</i>
犬=NOM	孫=ACC	つかむ-SEQ2	また
<i>mmaga=ga</i>	<i>paapaa=φ</i>	<i>kasimi-ti</i>	<i>mata</i>
孫=NOM	おばあさん=ACC	つかむ-SEQ2	また
<i>paapaa=ga</i>	<i>mmee=φ</i>	<i>kasimi-ti</i>	<i>mata</i>
おばあさん=NOM	おじいさん=ACC	つかむ-SEQ2	また
<i>mmee=ga</i>	<i>kabu=φ</i>	<i>kasimi-ti</i>	“ <i>haijaagwa haijaagwa</i> ”
おじいさん=NOM	かぶ=ACC	つかむ-SEQ2	DSC DSC
<i>jaiga</i>	<i>kabu=ja</i>	<i>nu-ki-hiij-aN</i>	
しかし	かぶ=TOP	抜く-SEQ1-POT-NEG	

猫が犬を引っぱって、犬が孫を引っぱって、孫がおばあさんを引っぱって、おばあさんがおじいさんを引っぱって、おじいさんがかぶを引っぱって、「うんとこしょ、どっこいしょ。」しかし、かぶは抜けない。

*majaa=ja eNcu=φ ju-ri kisa-N*  
 猫=TOP ネズミ=ACC 呼ぶ-SEQ2 来る.PST1-IND  
 猫はネズミを呼んできた。

<i>eNcu=ga</i> ネズミ=NOM	<i>majaa=φ</i> 猫=ACC	<i>kasimi-ti</i> つかむ-SEQ2	<i>mata</i> また
<i>majaa=ga</i> 猫=NOM	<i>iN=φ</i> 犬=ACC	<i>kasimi-ti</i> つかむ-SEQ2	<i>mata</i> また
<i>iN=ga</i> 犬=NOM	<i>mmaga=φ</i> 孫=ACC	<i>kasimi-ti</i> つかむ-SEQ2	<i>mata</i> また
<i>mmaga=ga</i> 孫=NOM	<i>paapaa=φ</i> おばあさん=ACC	<i>kasimi-ti</i> つかむ-SEQ2	<i>mata</i> また
<i>paapaa=ga</i> おばあさん=NOM	<i>mmee=φ</i> おじいさん=ACC	<i>kasimi-ti</i> つかむ-SEQ2	<i>mata</i> また
<i>mmee=ga</i> おじいさん=NOM	<i>kabu=φ</i> かぶ=ACC	<i>kasimi-ti</i> つかむ-SEQ2	“ <i>haijaagwa haijaagwa</i> ” DSC DSC
<i>kkee</i> DSC	<i>nama=ru</i> 今=FOC	<i>kabu=ja</i> かぶ=TOP	<i>nu-zja-N</i> 抜く-PST1-IND

ネズミが猫を引っぱって、猫が犬を引っぱって、犬が孫を引っぱって、孫がおばあさんを引っぱって、おばあさんがおじいさんを引っぱって、おじいさんがかぶを引っぱって、「うんとこしょ、どっこいしょ。」あらあら、ようやくかぶは抜けた。

\*1 外間守善（1985）では、次のように今帰仁方言、久高方言、首里方言の形態が示されている。

今帰仁方言：条件形 *jumiba* 継続形 *judun* / 久高方言：条件形 *jumiba* 継続形 *juru:n*  
 首里方言：条件形 *jume:* 継続形 *judo:n*

その他、否定形、意志形、命令形、連用形、接続形、過去形が示されているが、3つの方言において、これらは音声上のヴァリエントの関係にあり、形態としては同一のものと見なすことができる。

\*2 勧誘形、基本形は「行く」に対応する形式で、第2中止形 *N-zi* は「往ぬ」形式の「往にて」に対応するので、第2中止形の形式のみ不規則になっている。

\*3 *ukiN*（起きる）は *ukiru* で、長音化しない。音節数によって区別があると考えられるが、長音化するものとししないものとの区別は未調査である。

\*4 中南部方言である首里方言や大山方言の場合、条件形に *-aal-wa* 形式 (*jumaa* 首里/*jumawa* 大山)、*-ne(e)* 形式 (*jumine(e)*)、*-ee* 形式 (*jumee*) の3形式が見られる。しかし、津堅方言では、*-ba* 形 (*jumiba*) と *-ne* 形 (*jumine*) の2形式である。

\*5 条件形の使用実態や意味機能の差についてはより詳細に記述する必要があるが、今後の調査課題である。

グロス一覧

ABL	ablative	奪格	LOC1	locative	場所格 Nka 形
ACC	accusative	対格	LOC2	locative	場所格 Nzi 形
ADD	additive	添加	LOC3	locative	場所格 uti 形
ADJ	adjectivizer	形容詞化	NEG	negative	否定
ADN	adnominal	連体/名詞化	NOM	nominative	主格
ALL	allative	向格	NPST	non past	非過去
COND	conditional	条件	PASS	passive	受身
COP	copula	コピュラ	PL	plural	複数
CSL	causal	理由	PROG	progressive	進行
DAT	dative	与格	PST	past	過去
DIM	diminutive	指小辞	PURP	purposive	目的
DSC	discourse marker	談話標識	Q	question particle/ marker	疑問
FOC	focus	焦点	QUOT	quotative	引用
GEN	genitive	属格	REC	recitation	列挙
IMP	imperative	命令	SEQ1	sequential converb	中止形 1
IND	indicative	終止形	SEQ2	sequential converb	中止形 2 = テ形
INFR	inferential	推量	SEQ3	sequential converb	先行形
INST	instrumental	具格	SFP	sentence-final particle	終助詞
INT	intentional	意志	TOP	topic	主題